

エジプトアラビア語における親族呼称表現に関する研究

—夫婦間の呼称・言及の表現とその使用状況に関するアンケート調査の結果を中心として—

エシーバ ムハンマド

キーワード：エジプトアラビア語 夫婦間の呼称・言及表現 待遇表現 社会・言語・文化の関係

1. はじめに：

本稿では、エシーバ (2016) で予備調査として行われた、「エジプトアラビア語における呼称表現」に関するアンケートの延長として実施された本調査としてのアンケートとその結果について紹介する。予備調査では、エジプトにおける呼称表現全体（職場や親族等）の幅広い場面で使用される表現について調査し、その結果と分析を行った。この調査が予備調査であったため、対象が絞られておらず、対象者数もそれほど多い数ではなかったことが主な反省点であった。これを受け、本調査では呼称表現の使用において絞るべき対象を、エジプトの首都であるカイロとカイロ以北の地域での「親族¹呼称」に限定した。また、前回の予備調査で実施できなかった詳細な設問と選択可能な複数の回答選択肢を設け、対象地域の多様な回答者 241 名に協力してもらった。

アンケート調査全体では、「兄弟姉妹」、「親子」「おじ、おば、祖父母」などの親族の相手に対して使用する呼称・言及の表現について調べ、その使用状況を明らかにしようとしている。本稿では、調査の一部としての、「夫婦間の呼称・言及の表現」についての質問への回答結果を紹介した上で、現代エジプト社会における親族呼称表現の使用状況と方法、そしてその表現から見える社会文化的な特徴について考察する。

1.1. 現代エジプト社会の特徴と待遇表現の種類とその使用傾向について：

エシーバ (2016) でアラビア語の敬語について述べたように、古来の文語アラビア語には、体系化した文法カテゴリーとしての「敬語」という項目がない。それにもかかわらず、エジプト社会の日常生活で使用される口語アラビア語エジプト方言で数多くの待遇表現が使用されていることは事実である。特に呼称表現の中に待遇性を持った表現が多くあるが、その使用状況や特徴等については殆ど研究されておらず、本研究を通してエジプトアラビア語における呼称表現とその待遇性について明らかにすることに大きな意義があると考えられる。

現代エジプト社会の特徴を表す要素には、地域の伝統文化とその特色や経済状況とそれに伴う生活環境が挙げられる。それらの要素とかがわりがあると思われる教育歴や識字率全体等も、現代エジプ

¹ 本稿での「親族」とは、主に身内で血縁関係にある親戚のことを指すという扱いになるが、エジプト社会としての解釈では、親族の同様の関係にある親戚意外の近所の人や友人等も含まれることがある。

ト社会のあり方を現わしていると言える。現在のエジプトの識字率は約 76%²で、年々少しずつ上がってはいるが、未だ低い水準であるのは間違いのないことである。また、識字者³ではあるが、不登校や義務教育を終えていないという人もおり、社会への意識と適合性の程度が低く、非識字者⁴とさほど変わらない場合がある。24%の非識字者は本調査の対象にはならないが、筆者はエジプトの識字者と非識字者が使用する待遇表現とそれへの意識の違いがあるとみている。それは、非識字者が識字者より劣っているという意味ではなく、両者を囲む社会環境や教育歴等とそれらの影響によってできた社会への意識と適合性等の違いである。また、識字者と非識字者の間の違いと同様に、同じ識字者の間でも、教育歴レベルや職種や生まれ育った環境等によって言語使用に違いが生じると考えられる。

このように、上記の社会的要素の一つもしくはそれ以上の要素が人の言動や考え方を特徴づけ、当然それらの要素による影響も日常生活での待遇表現の使用とそれへの意識に現れることがある。次の例を紹介しよう。エジプトでよく使用される待遇表現として (**hadret-a-k⁵**=貴方様) という表現があり、日常会話で初対面の年上及び目上と思われる相手に対して頻繁に使われる表現である。話し手の教育歴、または、生まれ育った環境(地域)等の条件によって、その待遇表現が適切な相手に対して使われたり、使われなかったりするということがある。もちろんこのようなことは、全ての非識字者や低学歴の人、あるいは特定の地域の人に確実に限定したことはないが、このような表現が、使用されるべき場面にもかかわらず使用されないということについて、社会の中での習慣・教育等の環境からの影響が理由として考えられる。識字者と非識字者の間の違い、特に呼称表現とその待遇性における違いを立証するには、非識字者を対象とした調査をする必要がある。

最後に、上記に述べたエジプト社会を代表する社会地域の類型について述べる。エジプトの地域社会は、都市部(URBAN)と農村部(RURAL)という二つの類型に大きく分けられる。それぞれに独自の特色があり、方言、生活習慣と伝統文化、価値観、経済状況等において違いがみられる。もちろん、地理的に隣接する都市部と農村部がある地域は、人口移動等でそれぞれの特色における共通点が現れる場合もある。また、エジプトの北部(カイロ及びカイロ以北のデルタ地方)は価値観や伝統文化、言語使用(方言も含めて)等において、都市部と農村部も地域の違いはあるものの、エジプト南部(カイロ以南の地方)との違いと比較して、さほど大きいものではない。カイロ以南のエジプト南部地方は、部族主義や古い伝統を重視することなどで知られる地域が多い。そして、南部地方の都市部と農村部間の地域の違いはともかく、カイロを境界線として北と南の間の価値観や伝統文化、言語使用(方言も含めて)等における違いが大きいことが事実である。そのため本調査では、特にカイロ及びカイ

² 出典：WOLDBANK のホームページより：

(<http://data.worldbank.org/indicator/SE.ADT.LITR.ZS?locations=EG>) (2017年7月 閲覧)

³ ここでの識字者とは、特に義務教育まで進み、修了した人を指しているが義務教育を終えていない人は含まれていない可能性がある。

⁴ ここでの非識字者の中には、義務教育を終えていない人も含まれる可能性がある。

⁵ ここでのアラビア語の言葉の表記方法について、主に IPA (国際音声記号) によって記されている。

ロ以北の地域をアンケート全体の対象地域とした。本稿では、都市部と農村部の両方の地域での夫婦間の呼称・言及の表現の使用状況について年代・地域・男女別で分析し、その結果を明らかにしている。

2. アンケート調査の概要：

2.1. アンケート調査の内容と目的：

本アンケートは、アラビア語を母語とするエジプト人を対象に、「エジプトアラビア語における親族呼称表現」についての 44 の質問から構成されている。本調査の実施場所及び対象地域は、上述の通りエジプトの首都カイロ及びカイロ以北のナイル川デルタ地方（都市部と農村部）である。エジプトアラビア語には、地域社会とその文化を代表する伝統の違いにともなって多様な方言があるが、カイロとデルタ地方間の距離の長さのおかげか、それらの地域の方言の違いはそれほど大きくなく、発音の変化や特定の単語の違いに過ぎない。とはいえ、それぞれの地域社会の特色を持つ伝統文化や価値観等の差は大きいと言える。

本調査では、エジプトアラビア語における親族呼称表現について、その表現が持つ待遇性の観点から調べることを目的としている。本稿で紹介するのは、アンケート調査の一部である、「夫婦間の呼称・言及の表現」についてであり、その家庭内外での使用状況について調べ、それぞれの呼称表現の背景にある言語・文化・社会的特徴について分析し、明らかにすることが本研究の主な目標である。

2.2. アンケート調査の方法：

本アンケートは、2016 年 12 月より 3 ヶ月間に渡り、エジプトの首都であるカイロ（首都圏地域も含めて）とアレキサンドリアの大都市の他に、カイロ以北のデルタ地方の市町村で紙媒体とインターネット経由の二種の方法によって実施された。紙媒体とインターネット経由のそれぞれの数は、紙が 119 人でインターネットが 122 人であり、ほぼ同じ割合になっている。これらの二種の方法を導入した目的は、できる限り多くそして多様な対象者に回答してもらい、より正確な結果を得るためである。インターネット経由の調査については、対象者に対してアンケートにアクセスできるリンクの情報がメール等で送信され、そのリンクが届いた人しかアクセスできないようになっている。一方、紙媒体のアンケートについては、各対象者への直接の手渡しや郵送等の方法が主な方法であった。

最後に回答方法について説明する。回答者にとって質問への回答がしやすいように、すべての質問において回答選択肢から選択可能なものになっている。そして、より正確な結果が得られるように、多くの質問において選択可能な回答選択肢から複数選択ができるように設定されている。そして、選択可能な回答選択肢の中に該当する回答がない場合は、「その他」という項目も設けられており、回答者がその詳細な説明や新しい回答を記入することになっている。

3. 調査結果とその分析：

3.1. アンケート回答者の基本情報：

本アンケートの対象者は、エジプトの首都カイロ及びカイロ以北の地方に位置する都市部及び農村部の出身者 241 名であり、その回答者の内訳や基本情報について以下の図表で紹介していく。

3.1.1. 回答者の性別：

まず、回答者の性別について紹介する。図 1 の通り、男女の割合がほぼ同じ割合になっており、男性がわずかに多く、51%であるのに対し、女性が 49%である。エジプトの人口は、エジプト政府の統計局「EGYPT IN FIGURES」⁶で出された 2017 年 1 月 1 日現在の統計によれば、約 9 千 2 百万人に達し、男女の割合が本調査での男女の割合と同様で男性が 51%で女性が 49%である。この男女の均等な割合は、調査の結果において極めて好都合なことであり、エジプト人口の実際の男女の割合と同様の割合であることから、より正確で客観的な結果が得られると言える。

図 1：＜回答者の性別＞



3.1.2. 回答者の年齢層：

次に回答者の年齢層について紹介する。本研究で一つの年齢層だけに回答者が集中しないように、多様な年代の人に回答してもらった。以下の図 2 でその内訳が示されているように、30 代が最も多く 4 割を占めている。次に多かったのが 20 代で 36%になっており、20 代と 30 代合わせると、全体の約 4 分の 3 を占めることになる。40 代は、一割を超え 11%で、50 代が 6%であった。その他の年代については、20 歳未満は一割未満で、60 代以上の極めて少なく 1 人しかいなかった。20 代と 30 代が最も多かった理由は、インターネット利用者の殆どが若者だからである。更に現在のエジプトの若年層⁷の割合が非常に大きく、上記で紹介したエジプト政府が発表した『EGYPT IN FIGURES』という統計データによれば、人口の約半分 (49.1%) が若年層であるとしている。

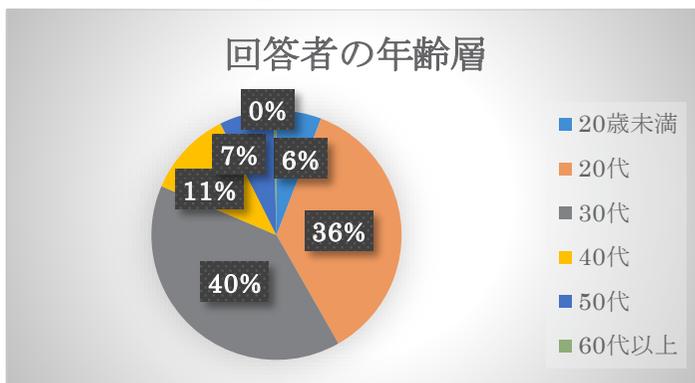
⁶ エジプト政府の統計局「EGYPT IN FIGURES」のホームページより：

(http://www.capmas.gov.eg/Pages/StaticPages.aspx?page_id=5035) (2017 年 8 月閲覧)

⁷ このエジプト政府の統計での若年層とは、15 歳以上 45 歳未満の年齢層を指している。

エジプト社会には、特に最近の情報化と国際化の世界において様々な変化が起きている。たとえ一世代の差でも周りの社会の環境の違いで、各世代の考え方や価値観がメディアやインターネット社会や国全体で発生している多様な政治・経済・文化的な変化にも影響され変わっていくものと考えられる。そのため、多数を占める20代と30代、そして少数派の40代と50代の、それぞれの回答結果に大きな違いがあるか否かを確認し、明らかにしたいと考えている。

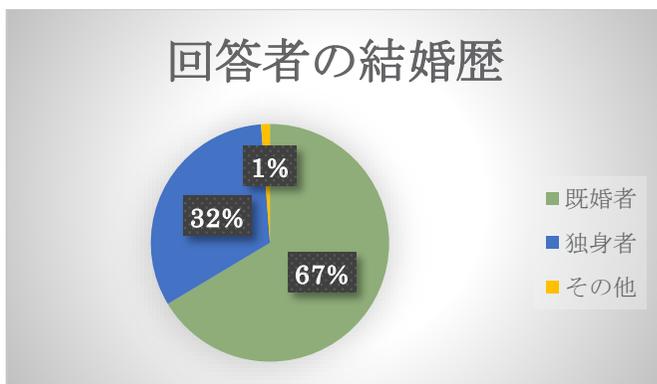
図 2 : <回答者の年齢層>



3.1.3. 回答者の結婚歴 :

次の図 3 では、回答者の結婚歴の割合について紹介している。結婚歴の結果は、既婚者⁸が約 3 分の 2 の 67%を占めているのに対し、独身者が 32%であった。結婚歴を確認する必要があるのは、既婚者の割合を確認し、夫婦間の呼称・言及の表現の回答結果において十分な割合かどうかを見極めるためである。7 割弱もの回答者が既婚者であるということで、本調査での夫婦間の呼称・言及の表現の使用状況についてより正確で客観的な回答が得られたと言える。

図 3 : <回答者の結婚歴>



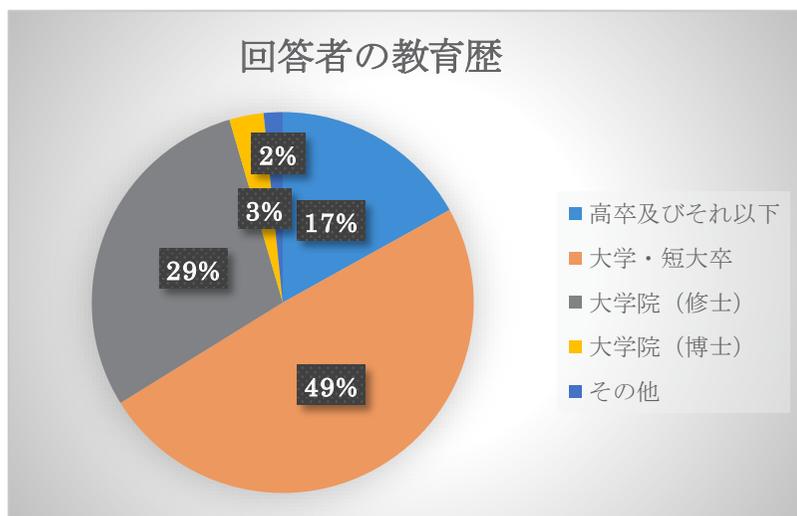
⁸ 本質問の回答選択肢には、「既婚、婚約、独身」の3択があり、ここでは、基本的に「婚約」と答えた人も既婚者としてカウントしている。

3.1.4. 回答者の教育歴・職歴：

以下の図4と図5では、回答者の教育歴と職歴の情報を紹介している。教育歴・職歴を調べ、紹介する目的は、回答者がどのような社会的体験を受け、育った環境・受けた教育についてどのような特徴を持っているかを把握し、回答の結果で参考にするためである。上記にも述べたが、エジプトにおける非識字率は24%にのぼり、社会問題となっている。経済的社会的な理由が多いが、このような高い非識字率は、特に学歴の有無、及び進学レベルの違いにつながり、各個人の意識・知識のレベルが異なってくることになる。更にそれによって言語使用、特に呼称表現の使用状況が異なってくると筆者はみている。

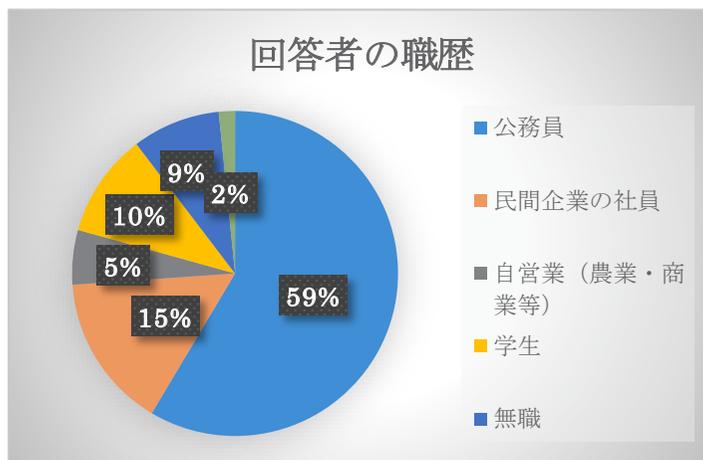
回答者の学歴については、図4にあるように、回答者のおよそ5割の人が大学を卒業しているレベルであり、3割近くの人が大学院在学もしくは大学院卒であり、高等教育の学歴がある回答者を合わせると、約8割を占めていることになる。残りの回答者については、17%の人が高等学校及びそれに同等するレベルまでの教育を受けている。エジプトでは、「高卒」で大学に進学しない者は、その殆どが産業・農業・商業の高等学校卒業業者であり、一般の高等学校と比べ社会的にレベルが低く、大学への進学が難しく、そして就職等においてもそれほど高く評価されないことで知られている。更にこのような学校を卒業した者は、特に農村部の場合、不登校や学校側の管理上の問題等により、教育の質の低下や専門知識の乏しさ等が問題となっており、改革が必要とされている。

図4：＜回答者の教育歴＞



一方回答者の職歴については、図5にあるように、6割近くの人が公務員の仕事をしており、その他に、会社員や自営業と答えた人が2割を占めており、合計約8割の人が社会人経験者である。その他の回答者は、「学生」と「無職」でそれぞれ1割を占めている。このように、回答者の大多数が社会人である他、学生や社会人の経験がない人もおり、社会の様々な環境で実際に使用される呼称表現について客観的な結果が得られると考える。

図5：＜回答者の職歴＞



3.1.5. 回答者の出身地域：

次に紹介するのは、本研究で分析に欠かせない重要性を持つ、回答者の出身地域である。エジプトについては、上記でも紹介したように、国全体が大きく都市部と農村部という二つの地域的類型に分かれている。本調査の回答者の出身地域について、都市部に大都市である首都及び首都圏エリアと第二の首都とも言われる地中海に面しているアレキサンドリア、そしてその他のカイロ以北の主要都市が対象となっており、その割合が全体の約3分の2で65%を占めている。これに対して残りの35%は農村部出身者である。都市部の回答者が多かった理由については、本調査の実施方法の一つがインターネット経由で、インターネット回答者は都市部出身者が多いということが挙げられる。

地域別の男女の割合については、男性回答者の6割が都市部出身者であるのに対し残りの4割が農村部出身者である。また、女性について、都市部出身者が約7割であるのに対し、農村部出身者が3割近くになっている。年齢層については、若年層（20歳未満、20代、30代）の都市部出身者は、

約 64%を占めているのに対し、農村部出身者が残りの 36%を占めている。そして、中高年層（40 代、50 代）の都市部出身者が 73%を占めているのに対し、農村部出身者が残りの 17%を占めている。

図 6 : <回答者の出身地域>

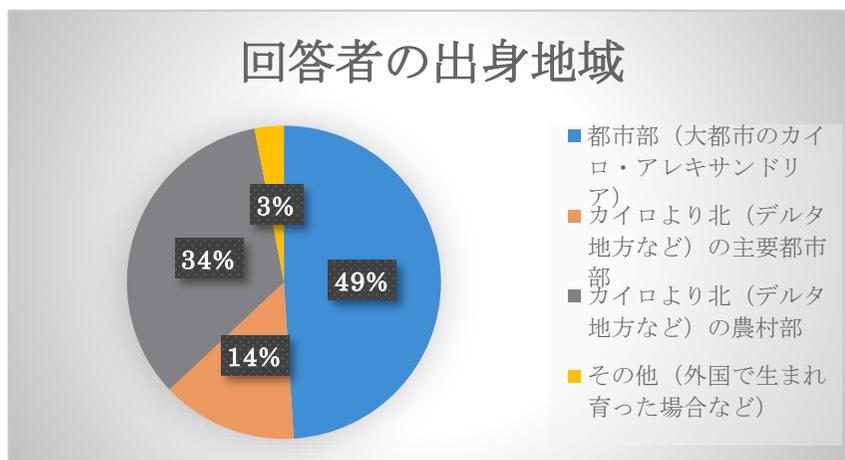


表 1 : <アンケート回答者の年代別の出身地域の内訳>

| 年齢層・男女別 出身地域 | 30 代以下 | | 40 代以上 | | 合計 | 男女別小計 | | 合計 |
|---------------------------------|---|--------------------------|-------------------------|-------------------------|--|---------------------------|---------------------------|----------------------------|
| | M ⁹ | F ¹⁰ | M | F | | M | F | |
| 都市部（カイロ・アレキサンドリアの大都市やカイロ以北の都市部） | 67 ¹¹ (57 ¹²) | 68 (70) | 16 (67) | 17 (81) | 168 (65) | 83 (59) | 85 (72) | 168 (65) |
| カイロ以北のデルタ地方等の農村部 | 50 (43) | 29 (30) | 8 (33) | 4 (19) | 91 (35) | 58 (41) | 33 (28) | 91 (35) |
| 合計 | 117 (45) | 97 (37) | 24 (9) | 21 (8) | 259 ¹³ (100) | 141 (54) | 118 (46) | 259 (100) |

⁹ 「M」は (Male) の頭文字で「男性」を指している。

¹⁰ 「F」は (Female) の頭文字で「女性」を指している。

¹¹ ここ以下の表にある上段の数字は、回答数を示している。

¹² ここ以下の表にある下段の、括弧()の中の数字は、男女別、年代別、地域別の各カテゴリーの回答数からの割合や全体の回答からの割合を (%) で示した数値を表している。

¹³ 回答総数は、全回答者数を上回ることがあるが、それは多くの質問の回答選択肢から複数選択可能な形式になっているからである。

3.2. 呼称・言及の表現のへの回答結果とその分析：

ここでは、夫婦間の呼称・言及の表現についての質問への回答結果を提示した上で、その結果の分析を行う。以下に紹介する夫婦間の質問は、主に家庭内外での夫婦間の直接呼称もしくは言及の表現についての質問が6問ある。その他に子供の前での夫婦同士の言及表現に関する質問が1問、そして夫／妻の両親への呼称・言及の表現についても1問あり、以下の3.2.1. (表2)～3.2.8. (表9)の通り紹介していく。

各質問への選択可能な回答には、対象者の幅広い地域や年齢層等を意識し、様々な場面に適した多様な表現が設けられている。日常生活で使用されるこれらの呼称表現とその待遇性については、個人差があると思われるが、エジプト社会において、あらゆる場面、そしてあらゆる対象者を取り巻く環境や条件等においてどのような表現の使用傾向があるかをみていく。そして、場面・地域・性別・年代等の変化によって使用される表現にどのような変化があるかということ調べ、明らかにすることを主な目標である。

ここで、回答選択肢での呼称表現について紹介する前に、エジプトでの呼称方法や名前の表記方法等について、エシーバ(2016)で述べたことを参考に次のように説明する。まず、エジプトで最も代表的で一般的な呼称方法は、相手の「名」、もしくはあらゆる呼称表現の前に、「يا¹⁴ - Ya: = (名前等) + よ」という呼称語を付けて使用するという方法である。ただし、この呼称語を付けずに呼称表現を直接使用することも可能である。また、エジプトにおける名前の表記方法については、日本と大きく異なり、相手の名前を使って呼びかける場合、基本的に姓ではなく、個人名である「下の名前」が広く使用されている。そして、名前の順においてもエジプトは日本と逆の順になっており、個人名が最初で、その後に来るのがミドルネームかファミリーネームという順で、殆ど場合はファミリーネームが最後に来る。エジプトにも部族を表すファミリーネームが存在し、限定的に呼称表現として使用されることはあるが、その使用方法や使用上の社会・文化的特徴が日本と異なることが事実である。その違いの分かりやすい例として、エジプトが夫婦別姓であるという点が挙げられる。夫婦別姓であるということは、女性が結婚しても姓名が一生変わらないということを意味し、以下に紹介する回答結果でも、夫婦同士が相手のことを他人の前でも「個人名」である「下の名前」で呼びかけたり言及したりするという回答が多い。そのため、夫婦間の呼称表現の分析において、相手の名前を使った呼称方法についての上記の説明が非常に重要で配慮されるべきであると考えられる。

選択可能な回答には、「個人名」、「あだ名等の愛称」、そして「パパ・ママ」等で、日本でも共通する表現が挙げられている。一方、その他にもエジプト及びアラブ社会独特の表現として、子供(特に長男)の個人名の前に、「Umm/Abu = (子供の名+の父・母)」、社会的、そしてイスラーム教の五行の一つの行為である巡礼を指す表現の「その他の表現: hagg/haggah = 巡礼者」が挙げられる。ま

¹⁴ アラビア語には「Ya:」以外に正則の複数の呼称語があるが、日常生活では殆ど使われていない。

た、少数派だと思われるが、相手の「役職名称」を使った呼びかけの表現もあり、夫婦間にもかかわらず使用される表現の一つである。以下には、それぞれの表現の回答結果を表 2～表 9 で数字と割合で提示しながら、詳しく分析していく。

3.2.1. 家庭内での夫から妻への呼称表現について：

以下の表 2 では、家庭内や親族の人の前での夫から妻への直接の呼びかけ表現の回答結果を紹介している。回答結果の見方については、年代別・性別・地域別での回答数とその割合が提示されている。

この質問で最も多かった回答は、「個人名」での呼びかけである。夫から妻への、家庭内及び親族の人の前という場面での呼びかけ表現ではあるが、通常の表現として相手の「個人名」で呼びかけると答えた人が半分近くの 4 約 46%を占めている。年代別では、各年代の回答数の割合がそれぞれ近い割合で 4 割から 5 割を占めている。そして、この表現を選択した回答の内、都市部と農村部の地域別の結果で見ると、農村部よりも、都市部の回答者のほうが多く、4 分の 3 以上を占めている。

次に多かった回答は、「あだ名や親しみを表す愛称等」となっており、約 2 割弱 (19.3%) を占めている。この回答を選んだのは、基本的に若年層の 20 代と 30 代の回答者が大多数であり、回答総数の約 95%で、30 代だけで 70%になっている。このような結果が持つ意味は、「あだ名」や「愛称など」の表現の回答者の内、若い年代のほうが使う傾向があることがわかる。その背景には、若い夫婦と比べて成熟した関係を持つ中高年の言語使用の傾向を表していると言える。その次に多かった回答は、「ママ等のような外来語 (特に子供がいた場合)」で、2 割近くの約 18%を占めている。この表現の場合は、外来語の「ママ」以外の「お母さん」などの言葉は含まれておらず、ほぼ使用されることはなく、基本的に「ママ」という表現に限られる。年齢別での当表現の回答割合は、各年代で非常に近い割合になっており、それぞれ 2 割近くで、幅広い年齢層に使用されていることが分かる。

次の回答は、エジプト及びアラブの社会独特の表現、「子供 (特に長男) の名の前に **Umm**= (子供の名+の母)」という表現で、1 割を超え、1 約 4%を占めている。全体からみてそれほど多く使われてはいないが、回答者の多くが 40 代と 50 代で、最も多く使われる地域が農村部であることが分かった。このように、当表現の使用状況について都市部よりも農村部が多く、そして若年層よりも中高年層の間で使用頻度が高い結果になっている。近代化や伝統文化的な特徴を持った表現の使用から離れた都市部よりも、農村部のほうが未だにそのような表現の使用率が高いことが考えられる。また、特に都市部の若年層の間では、このような表現の使用がそれほど適切ではないと考える人が多く、特定の社会的地位や年齢層の印象を与えることで、この表現が若者の夫婦に避けられていると分析できる。その他の回答には、少数派で全体の 3～5%程度の (**ḥaggah**=巡礼者) と「役職名称」という回答があったが、筆者からみると、これらの回答が使用されるのは、言及の表現の場合が少々多く、直接の呼びかけの表現にはふさわしくないことが読み取れる。

表 2 : <既婚者の男性が家庭内や親族の人の前で自分の妻に呼びかける時の表現>

| 年代・地域別 呼称表現 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 合計 | 地域別小計 | | 合計 |
|--|--------------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|----------------------------|--------------------------|---------------------------|----------------------------|
| | 小計 | 小計 | 小計 | 小計 | | 農村部 | 都市部 | |
| 個人名 ¹⁵ | 37 (50) | 53 (43) | 10 (40) | 14 (54) | 114 (46) | 27 (29) | 87 (56) | 114 (46) |
| あだ名や親しみを表す 「愛称」など | 12 (16) | 34 (27) | 1 (4) | 1 (4) | 48 (19) | 15 (16) | 33 (21.4) | 48 (19) |
| ママ等のような外来語 (特に子供がいた場合) | 14 (19) | 23 (18) | 4 (16) | 4 (15) | 45 (18) | 24 (26) | 21 (13.5) | 45 (18) |
| その他の表現:「Umm○ ○=子供の名+の母」 | 9 (12) | 11 (9) | 8 (32) | 6 (23) | 34 (14) | 24 (26) | 10 (6.5) | 34 (14) |
| その他の表現:「haggah= 巡礼者」 | 1 (1.5) | 2 (2) | 1 (4) | 1 (4) | 5 (2) | 3 (3) | 2 (1.3) | 5 (2) |
| 役職名称:「Doctor-ah= 医者等、Ba:f Muhandis-ah =エンジニア様」 | 1 (1.5) | 1 (1) | 1 (4) | — | 3 (1) | 1 (1) | 2 (1.3) | 3 (1) |
| 合計 | 74 (30) | 124 (50) | 25 (10) | 26 (10) | 249 (100) | 94 (38) | 155 (62) | 249 (100) |

3.2.2. 家庭外での夫から妻への呼称表現について :

次の表 3 では、既婚者の男性が家族や親族の人以外の他人の前で、自分の妻に呼びかける時に使用する表現についての質問で得られた回答結果を紹介している。質問への選択回答は、3.2.1.で紹介したのとは同様のものになっている。

最も多かった回答は、全体の回答の約 4 割を占めた「個人名」という回答であることが分かった。この結果は、3.2.1.の表 2 の同回答結果と近い割合になっており、家庭内外での「個人名」での呼びかけにおける差がそれほど大きくないことを表している。以下にも詳しく説明するが、「個人名」について、通常の表現として使用されると共に、他の回答も同時選択されている場合が多いことを述べておきたい。

¹⁵ 本稿での「個人名」とは、ほとんどの場合は、「下の名前」を指すが、それ以外の通称やミドルネーム及びファミリーネーム等の名前も含まれる場合もある。

その次に多かった回答は、家庭内の場合と大きく異なり、3割弱を占めた「子供（特に長男）の名の前に **Umm** = (子供の名+の母)」という表現である。家庭内の場合では、約1割を少々上回っていたが、家庭外の他人の前の場合はその3倍近く多い結果になっている。更に、最も多かった年齢層は、30代、40代、50代でそれぞれの回答数の内、3割から4割を占めているのに対し、20代だけが少なく、中高年層に多く使用される傾向があることが分かる。また、この表現を使用すると回答した人の殆どが農村部出身で、都市部の回答者の割合の2倍になっている。

上述のように、この表現は、使用上の社会的な特徴を持ち、呼びかけの時にこの表現を使用すると回答した人の出身地域等の事情が影響しているものと思われる。そして、「個人名」を使用しない、もしくは、使用すると同時に、「**Umm** = (子供の名+の母)」という表現を使用する背景には、(特に中高年の夫婦の場合、)他人の前での場面において、外部社会の中での夫から妻への尊敬と評価の表し方と考えられる。

一方、「個人名」での呼称・言及の表現が回避され、「個人名」以外の表現が使用される、尊敬や評価以外の目的で伝統的な使われ方もある。具体的には、「個人名」をできる限り他人の前で使用しないほうが良い、もしくは、使用はいけないうる考えを持つ人がエジプトを含むアラブ諸国に少なからずいるということである。そのため、「他人の前」の場面において男性から女性への、(特に名前を使わない)呼称・言及の表現が数多くあることは事実である。

このように、妻に呼びかける時、妻の名前以外の多様な表現を使用することにより、妻の名前を他人の前で使わずにコミュニケーションが取れるということになる。これは、エジプトを含むアラブ諸国の農村部の一部や砂漠住人のベドウィン等)の地域において、身内の大人の女性(妻、母、姉妹など)の名前を身内以外の男性の前では使用すべきではないという、古くからある伝統的な考え方があることによる。しかしこれに対して、特に都市部等の地域において、正当な伝統的宗教的な根拠がなく、あるべきではない考え方として批判されることがよくある。特にイスラーム教の聖典であるクルアーンにも、イエスキリストの母の名前(マルヤム=メリー)が数十箇所ですべて述べられており、114章あるクルアーンの一章が(マルヤム章)もある。そして、預言者の妻や子供娘の名前が普通のこととして知られ、そして一般の場面において使用されていた上に、現在まで伝えられている。

次に多かった回答は、「ママ等」のような外来語で、13%を占めており、その大多数が20代と30代となっている。他に注目すべき回答として、全体回答の1割近くの8%を占めた「役職名称」での呼びかけ表現である。今回の質問での呼称表現の使用場面が他人の前であるため、妻が医者、エンジニア、そして大学教員など役職に就いている場合に、夫からの妻への尊敬として、「ドクター、エンジニア様」等の表現が使用される割合が約1割である。筆者は「言及の表現」の使用場面について、

このような役職名称での呼びかけ表現が使われる可能性が他の場面より多いと予測していたが、8%の人が、他人の前で自分の妻に役職名称で呼びかけるといった結果は注目すべきものであると考えている。また、意外だった結果の一つに、「あだ名や親しみを表す愛称など」という回答で、他人の前にもかかわらず、少数派ではあるが、6%の人が使用していることが分かった。これらの表現の回答者の大多数が若年層（20代と30代）であることは言うまでもなく、近年の社会の変化や男女関係のあり方を表していると言うこともできる。

最後に最も少なかった回答は、「その他の表現:haggah=巡礼者」という表現で、わずか3%であるが、その殆どが中高年層の40代、50代となっており、それぞれの回答が回答者の年齢層とその特徴を表しているものと思われる。

表3：＜既婚者の男性が家庭外や親族以外の他人の前で自分の妻に呼びかける時の表現＞

| 年代・地域別 呼称表現 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 合計 | 地域別小計 | | 合計 |
|--|--------------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|----------------------------|--------------------------|---------------------------|----------------------------|
| | 小計 | 小計 | 小計 | 小計 | | 農村部 | 都市部 | |
| 個人名 | 32 (46) | 49 (42) | 8 (28) | 11 (46) | 100 (42) | 25 (30) | 75 (49) | 100 (42) |
| あだ名や親しみを表す「愛称」など | 9 (13) | 3 (2.6) | 1 (3.5) | 1 (4) | 15 (6) | 5 (6) | 10 (6.4) | 15 (6) |
| ママ等の外来語（特に子供がいた場合） | 8 (12) | 17 (14.7) | 5 (17) | — | 30 (13) | 11 (13) | 19 (12) | 30 (13) |
| その他の表現：「Umm○○ =子供の名+の母」 | 12 (17) | 36 (31) | 12 (41) | 7 (29) | 67 (28) | 33 (39) | 34 (22) | 67 (28) |
| その他の表現：「haggah =巡礼者」 | — | 2 (1.7) | 1 (3.5) | 4 (17) | 7 (3) | 3 (4) | 4 (2.6) | 7 (3) |
| 役職名称：「Doctor-ah= 医者等、Ba:f Muhandis-ah =エンジニア様」 | 8 (12) | 9 (8) | 2 (7) | 1 (4) | 20 (8) | 7 (8) | 13 (8) | 20 (8) |
| 合計 | 69 (29) | 116 (49) | 29 (12) | 24 (10) | 238 (100) | 84 (35) | 154 (65) | 238 (100) |

3.2.3. 家庭外での夫から妻への言及表現について：

夫から妻への最後の表現として、以下の表4で既婚者の男性が家庭外で他人の人に自分の妻のことを指す時に使用する言及表現の回答結果を紹介する。まずは、選択回答は、表2、表3での選択回答と同様のものもあるが、不要な表現が削除され、言及表現として使用されられると思われる表現が追加されている。本質問への回答で新しく追加された回答は、表4の上から3番から5番までで、「奥さん」などの通常の表現、「(家、子供たち等)」の伝統的な表現、そして「**Elmada:m=マダム**」のような外来語表現である。

回答結果で最も多かった回答は、上記の家庭内外の呼称表現の結果と同様、「個人名」で全体回答の約3割を占めている。しかし、ここで多い回答ではあるが、上記の直接呼称表現の同表現の回答結果より約2割減っており、その減った分がその他の回答に分けられていることが分かる。次に多かった回答は、言及表現として通常の表現とも言える、「**Zogti=(私の)妻**」という表現で、全体の2割弱を占めている。その次に多かった表現は、地域性や社会的な特徴を持った「**Umm〇〇=子供の名+の母**」と「伝統的な表現である(家、子供たち等)」という表現で、それぞれ13%と11%を占め、両方を合わせると、全体の24%になる。その殆どが50代の回答者で、更に都市部より農村部の回答者が多い結果になっている。

次に紹介する回答結果は、1割を少々上回った表現で、「**(Elmada:m=マダム)**」のような外来語で12%を占めており、30代以上の回答者が特に多かった。しかし、地域別でみると、都市部と農村部の両方がほぼ同じ割合になっていることが分かる。この表現は、都市部でしか使用されないと思われがちだが、今回の結果では、使用しやすいこともあり、農村部で都市部と同様の割合で広く使用されており、恐らくテレビドラマや映画等影響によりこのような表現が広く使用されるようになったのではないかと推測できる。

次に1割近くを占めた回答は、「役職名称」での言及表現であり、3.2.2.での紹介した他人の前での直接呼称表現の同回答の結果と同割合になっている。言及表現としてのこの回答で、妻が医者、エンジニア、そして大学教員など役職に就いている場合に、夫からの妻への尊敬として、「ドクター、エンジニア様」等の言及表現が約1割の人に使用されている。また、この表現が使用される状況は、中高年層よりも若年層が多く、そして農村部よりも都市部のほうが多いことが分かった。

最後に、最も少なかった回答は、「あだ名や親しみを表す愛称」が4%と、「**Elhaggah=巡礼者**」が2.5%であり、他人の前での言及表現としてそれほど多く使用されないようである。特に若年層の夫が妻への尊敬を表す役職名称の表現を使用するのに対し、これらの巡礼者及び愛称の表現が避けられることは、夫から妻への適切な表現の選択過程を表していると考えられる。つまり、夫が妻について他人の前で使う言及表現及びその待遇性がこの回答結果から現れており、夫婦とはいえ、他人の前という外の社会の中での健全な人間関係を強く意識し、重視した言語使用であることを示していると言える。

このように、様々な場面において、通常の表現として多様な場面において、「個人名」や「Zogti=(私の妻)」という表現が定番として、最も多く使用される結果になっている。その理由として考えられるのは、一つの質問への回答の複数選択から選択可能な形式になっているということが挙げられえ。そのことで、回答総数が回答者総数を上回ることが多く、上記のような通常の表現が複数選択された回答の一つとなる。そのため、本研究で通常の「個人名」や「Zogti=(私の妻)」などの表現以外の表現にも注目し、それぞれの表現の地域・年代別の使用状況を詳しくみる必要がある。

表 4 : <既婚者の男性が家庭外や親族以外の他人の前で使用する自分の妻への言及表現>

| 年代・地域別 呼称表現 | 20代 小計 | 30代 小計 | 40代 小計 | 50代 小計 | 合計 | 地域別小計 | | 合計 |
|---|--------------------------|---------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|--------------------------|---------------------------|----------------------------|
| | | | | | | 農村 部 | 都市 部 | |
| 個人名 | 35 (41) | 35 (25) | 6 (19) | 9 (28) | 85 (30) | 19 (21) | 66 (34) | 85 (30) |
| あだ名や親しみを表す 「愛称」など | 3 (3.5) | 6 (4) | 2 (6.5) | 1 (3) | 12 (4) | 4 (4.5) | 8 (4) | 12 (4) |
| 「Zogti=(私の妻)」など を表す通常の表現 | 20 (23.5) | 27 (20) | 4 (13) | 3 (9.5) | 54 (19) | 13 (14) | 41 (21) | 54 (19) |
| 伝統的な表現(家、子供たち等) | 5 (6) | 17 (12) | 6 (19) | 3 (9.5) | 31 (11) | 14 (15.5) | 17 (8.6) | 31 (11) |
| (Elmada:m=マダム)の ような外来語 | 5 (6) | 18 (13) | 8 (26) | 4 (12.5) | 35 (12) | 11 (12) | 24 (12) | 35 (12) |
| その他の表現:「Umm○○ =子供の名+の母」 | 7 (8) | 20 (15) | 3 (10) | 8 (25) | 38 (13) | 19 (21) | 19 (9.7) | 38 (13) |
| その他の表現:「Elhaggah =巡礼者」 | — | 4 (3) | — | 3 (9.5) | 7 (2.5) | 5 (6) | 2 (1) | 7 (2.5) |
| 役職名称:「Eddocto:r-ah =医者、Elba:fMuhandis- ah=エンジニア様」 | 10 (12) | 11 (8) | 2 (6.5) | 1 (3) | 24 (8.5) | 5 (6) | 19 (9.7) | 24 (8.5) |
| 合計 | 85 (30) | 138 (48) | 31 (10.8) | 32 (11.2) | 286 (100) | 90 (32) | 196 (68) | 286 (100) |

3.2.4. 家庭内での妻から夫への呼称表現について：

ここからは、3.2.6.まで既婚者の女性が自分の夫への呼称・言及の表現についての質問への回答結果を（表 5, 6, 7）で提示しながら、その説明と分析を行う。

まずは、表 5 の結果をみてみよう。夫から妻への同質問の結果と異なる部分が見受けられるが、ここでも変わらないのは、「個人名」と答えた人が最も多、全体の 4 割を超えているという点である。この結果は、夫から妻への同場面についての質問への同回答と近い割合になっており、夫婦による親族の人の前での「個人名」での呼びかけが相互的に同様の結果になっている。

次に多かった回答は、「パパ」等の外来語で、2 割近くを占めている。また、近い割合で 18%を占めた回答は、家庭内及び親族の人の前の場面で使用される頻度が高くなる、「あだ名や親しみを表す愛称」という表現である。上記の 3.2.1.の表 2 で紹介した夫から妻への回答とほぼ同じ割合になっており、そして農村部よりも都市部の回答者が多く、そして若年層の 20 代と 30 代が大多数を占めている。この結果の通り、あだ名や愛称の表現が中高年層よりも若年層の回答者が多く、年齢の違いによる男女間の呼称表現の変化を表している。

一方他の回答結果については、「その他の表現:Abu○○=子供の名+の父」という表現で、13%を占めており、男性と同様の特徴を持ち、都市部よりも農村部が多く、そして、若年層よりも中高年層のほうが多い結果になっている。残りの回答は、全体の中で少数派ではあるが、「その他の表現:hagg=巡礼者」、そしてドクターやエンジニア等の「役職名称」という表現で、それぞれ約 3%を占めており、夫から妻への同様の場面での回答結果より少々多いことが分かった。

このように、女性の回答結果は、男性とは大きく変わらず、男女同士が使用する表現が適切に、そして平等に使用されている傾向があることが分かった。家庭内ということもあり、この質問への回答の結果がほぼ同様の結果になったが、次の家庭外と他人の前での言及の表現について男女の結果の違いに注目しながら分析することが必要と考える。

表 5 : <既婚者の女性が家庭内や親族の人の前で自分の夫に呼びかける時の表現>

| 年代・地域別 呼称表現 | 20代 小計 | 30代 小計 | 40代 小計 | 50代 小計 | 合計 | 地域別小計 | | 合計 |
|---|--------------------------|---------------------------|--------------------------|-------------------------|----------------------------|--------------------------|---------------------------|----------------------------|
| | | | | | | 農村 部 | 都市 部 | |
| 個人名 | 37 (51) | 44 (40) | 8 (36) | 9 (45) | 98 (43.5) | 24 (34) | 74 (48) | 98 (43.5) |
| あだ名や親しみを表す「 愛称」など | 15 (21) | 23 (20.5) | 3 (14) | — | 41 (18) | 8 (11) | 33 (21.4) | 41 (18) |
| パパ等のような外来語 (特に子供がいた場合) | 11 (15) | 24 (22) | 5 (23) | 2 (10) | 42 (19) | 12 (17) | 30 (20) | 42 (19) |
| その他の表現:「Abu〇〇= 子供の名+の父」 | 5 (7) | 14 (12.5) | 4 (18) | 6 (30) | 29 (13) | 19 (27) | 10 (6.4) | 29 (13) |
| その他の表現:「hagg=巡 礼者」 | 2 (3) | 1 (1) | 1 (4.5) | 3 (15) | 7 (3) | 5 (7) | 2 (1.2) | 7 (3) |
| 役職名称:「Doctor=医者 等、Ba:fMuhandis=エン ジニア様」 | 2 (3) | 5 (4) | 1 (4.5) | — | 8 (3.5) | 3 (4) | 5 (3) | 8 (3.5) |
| 合計 | 72 (32) | 111 (49) | 22 (10) | 20 (9) | 225 (100) | 71 (32) | 154 (68) | 225 (100) |

3.2.5. 家庭外での夫から妻への呼称表現について :

表 4 では、親族以外の他人の前での場面において、女性が自分の夫に呼びかける時に使用する表現の回答結果が示されている。社会における男女の関係の現れともいえる、他人の前での呼称表現を使用する場面で女性が夫に対してどのような呼びかけの表現を使用するかということがこの質問への回答結果の最も重要な部分である。

まずは、最も多かった回答から紹介する。まずは、「個人名」での呼びかけが最も多く、全体の半分で5割を占めており、これまでの回答結果の中で最も多い割合となった。そして上記に述べた同様の表現の回答結果同様、若年層の回答者により多く使用されることが確認されている。また、特にこの

回答結果は、夫から妻への同質問の回答結果より、妻から夫への、「個人名」の使用率が高く、女性のほうが他人の前での改まった場面において、より意識が高く、フォーマルな表現を使う傾向が強いということが分かる。それは、社会の中での男女関係のあり方を現す結果でもあり、他人の前の場合には、女性が男性に対して、「あだ名や愛称」等の親近感を表す表現を避けるということが考えられる。そして、尊敬を表すべき場面で適切だと思われる表現が使用されないことが不適切になり、不自然なコミュニケーションとなってしまう恐れがあると思われ、特に女性が男性より注意を払い、適切な表現の選択を真剣に行うと思われる。

一方残りの5割の回答結果は、他の様々な回答に振り分けられ、2番目に多かったのが、2割近くの18%を占めた、「Abu○○=子供の名+の父」という伝統的な表現である。夫から妻への同質問の回答結果より1割近く少なくなっており、この表現を最も多く使用するの、中高年層で、都市部より農村部出身者が著しく多い。また、近い割合でその次に多かった回答は、「パパ」等の外来語で16%を占めており、この回答も夫から妻への同質問の回答結果よりやや少なくなっている。次に1割弱を占めた回答は、男女共に同様の割合を占めた「役職名称」の表現で、夫から妻への回答結果と同様の8%を占めている。また都市部の中高年層の回答者のほうが最も多く、この表現が一方的に使用されるのではなく、男女共に相互的に使用されている傾向があることが分かった。

最後に最も少なかった回答は、全体から約5%を占めた「hagg=巡礼者」という表現で、夫から妻への同回答結果より少々多くなっている。そして、「あだ名や愛称」の表現が3%を占めており、他人の前での表現であるため、予想通りの結果で最も少ない回答数になっており、特に女性の場面への高い意識を表している。

上記の回答結果を振り返ってみると、夫婦間の呼称表現の使用状況が分かるように、家庭内及び親族の人の前での場面で使用される表現と家庭外の他人の前での場面で使用される表現とその割合が様々で場面と相手及び同席者によって適切に変更され、自然なコミュニケーションが取れるような回答結果であることが確認できた。

表 6 : <既婚者の女性が家庭外や親族以外の他人の前で使用する自分の夫への呼称表現>

| 年代・地域別 呼称表現 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 合計 | 地域別小計 | | 合計 |
|--|--------------------------|---------------------------|--------------------------|-------------------------|----------------------------|--------------------------|---------------------------|----------------------------|
| | 小計 | 小計 | 小計 | 小計 | | 農村部 | 都市部 | |
| 個人名 | 40 (62) | 51 (50) | 7 (35) | 6 (32) | 104 (50) | 24 (36) | 80 (57) | 104 (50) |
| あだ名や親しみを表す「愛称」など | 2 (3) | 4 (4) | — | — | 6 (3) | — | 6 (4.3) | 6 (3) |
| パパ等のような外来語 (特に子供がいた場合) | 11 (17) | 17 (16.6) | 4 (20) | 1 (5) | 33 (16) | 9 (14) | 24 (17) | 33 (16) |
| その他の表現:「Abu〇〇= 子供の名+の父」 | 6 (9) | 19 (18.6) | 6 (30) | 6 (31) | 37 (18) | 22 (33) | 15 (11) | 37 (18) |
| その他の表現:「hagg=巡 礼者」 | 2 (3) | 4 (4) | 1 (5) | 3 (16) | 10 (5) | 8 (12) | 2 (1.4) | 10 (5) |
| 役職名称:「Doctor=医者 等、Ba:f Muhandis=エン ジニア様」 | 4 (6) | 7 (6.8) | 2 (10) | 3 (16) | 16 (8) | 3 (5) | 13 (9.3) | 16 (8) |
| 合計 | 65 (32) | 102 (49) | 20 (10) | 19 (9) | 206 (100) | 66 (32) | 140 (68) | 206 (100) |

3.2.6. 家庭外での妻から夫への言及表現について :

ここでは、夫婦間の最後の質問への回答結果を紹介する。表 7 の通り、親族以外の他人の前という場面での、妻による自分の夫への言及表現に関する質問への回答結果を分析する。実際に使用される夫から妻への言及表現の数が、妻から夫への表現の数より多いため、この質問で設定された回答選択肢の数は、夫から妻への質問の回答選択肢の数より少なく、この点が男女の同質問での各回答の割合の差と関係している。

この質問で最も多かった回は、これまで同様の「個人名」で、全体の回答の約 4 割を占めている。次に多かったのは、「Abu〇〇=子供の名+の父」という伝統的表現で 2 割近くの割合になっており、表 4 での男性による自分の妻への言及表現の回答 (13%) よりやや多かった。この表現が伝統的な表現であることから、回答者の内訳や地域の特徴は上記に述べたのと変わらず、中高年層が若年層より多く、そして都市部より農村部の回答者が多い。その次に多かった回答は、「Zo:gi=(私の)夫」とい

う通常の表現であり、2割弱（17%）で都市部の若年層の回答者に多く使用される傾向がある。

次に多かった回答は、「役職名称」という表現で、12%を占めており、回答者の多くが都市部出身の中老年層の回答者であり、上記の表4で紹介した同回答を選択した男性（約8%）よりやや多かった。残りの回答は、少数派の「あだ名、愛称」の表現と、「Elhagg=巡礼者」という表現で、併せて約1割を占めている。

表7：＜既婚者の女性が家庭外や親族以外の他人の前で使用する自分の夫への言及表現＞

| 年代・地域別 呼称表現 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 合計 | 地域別小計 | | 合計 |
|---|--------------------------|---------------------------|--------------------------|-------------------------|----------------------------|--------------------------|---------------------------|----------------------------|
| | 小計 | 小計 | 小計 | 小計 | | 農村部 | 都市部 | |
| 個人名 | 36 (55) | 47 (42) | 5 (20) | 4 (21) | 92 (42) | 23 (34) | 69 (45) | 92 (42) |
| あだ名や親しみを表す 「愛称」等 | 5 (8) | 6 (5.5) | 2 (8) | — | 13 (6) | 2 (3) | 11 (7) | 13 (6) |
| 「Zo:gi=(私の)夫」を表す 通常表現及び各地域の方言 | 13 (20) | 15 (13.5) | 7 (28) | 2 (11) | 37 (17) | 4 (6) | 33 (22) | 37 (17) |
| その他の表現:「Abu○○= 子供の名+の父」 | 5 (8) | 23 (21) | 7 (28) | 6 (32) | 41 (19) | 24 (36) | 17 (11) | 41 (19) |
| その他の表現:「Elhagg= 巡礼者」 | 2 (3) | 4 (4) | 1 (4) | 3 (16) | 10 (5) | 7 (10.5) | 3 (2) | 10 (5) |
| 役職名称:「Eddocto:r=医 者等」、「Elba:f Muhandis =エンジニア様」 | 4 (6) | 16 (14) | 3 (12) | 4 (21) | 27 (12) | 7 (10.5) | 20 (13) | 27 (12) |
| 合計 | 65 (30) | 111 (50) | 25 (11) | 19 (9) | 220 (100) | 67 (31) | 153 (69) | 220 (100) |

3.2.7. 家庭内での夫婦が子供との会話で使用する相手の夫、妻への言及表現について：

以下の表8では、既婚者で子供がいる家庭での男女が自分の子供との会話で、相手の夫／妻を指すときに使用する言及表現の回答結果を年齢層の男女別・地域別で提示している。この質問は、家庭内での（子供に対する）夫婦同士の言及表現の使用状況を把握するのに必要な質問であると考えられる。選択可能な回答選択肢は3択のみであり、通常「Abu:k/Ummak=(あなたのお父さん、お母さん)」

と、「パパ、ママ」の外来語表現の他に、「Elhagg/Elhaggah=巡礼者」という表現で、以下にその回答結果を紹介し、説明する。まずは、先に最も回答数が多かった回答から紹介していく。7割もの回答割合を得たのは、「パパ、ママ」の外来語表現で、都市部出身の若年層の回答者が他の年齢層や地域よりやや多かった。アンケート全体の回答者は、若年層、そして都市部の回答者が多かったということもあり、この回答が他の回答より圧倒的割合で選択されている。また、この表現の男女の利用状況をみると、明らかに女性のほうが男性より多く、女性によって多く使用されることが分かった。

次に多かった回答は、通常表現である、「Abu:k/Ummak=(あなたのお父さん、お母さん)」で、約2割を占めており、「パパ、ママ」の表現とは異なり、若年層より中高年層、そして女性より男性回答者のほうが多いことが確認できた。また、地域についても、都市部に比べこの表現が農村部出身者に使用される傾向があり、「パパ・ママ」と反対の年齢層と地域の特徴を持った表現である。最後の回答は、「Elhagg/Elhaggah=巡礼者」という表現で、1割近くを占めており、男性のほうが特に多い。

表 8 : <親が子供に対して使用する、相手の夫もしくは妻についての言及表現>

| 年齢層・男女別 出身地域 | 30代以下 | | 40代以上 | | 合計 | 地域別小計 | | 合計 |
|-------------------------------|------------|------------|------------|------------|--------------|------------|-------------|--------------|
| | M | F | M | F | | 農村部 | 都市部 | |
| 「Abu:k/Ummak=(あなたのお父さん、お母さん)」 | 21 (25) | 4 (7) | 10 (43) | 2 (9) | 38 (20) | 21 (29) | 17 (14) | 38 (20) |
| 「パパ、ママ」等の外来語 | 55 (65) | 52 (85) | 9 (39) | 21 (91) | 136 (71) | 44 (60) | 92 (77) | 136 (71) |
| その他の表現:「Elhagg/Elhaggah=巡礼者」 | 9 (10) | 5 (8) | 4 (18) | — | 18 (9) | 8 (11) | 10 (9) | 18 (9) |
| 合計 | 85 (44) | 61 (32) | 23 (12) | 23 (12) | 192 (100) | 73 (38) | 119 (62) | 192 (100) |

3.2.8. 夫婦同士による、夫/妻の両親への呼称・言及の表現について:

本稿で最後に紹介するのは、夫婦同士から相手の夫・妻の両親への呼称・言及の表現の回答結果である。本質問で設定された回答選択肢の数は、他の質問の回答選択肢の数より多く、8択もの表現がある。義父母への呼称表現には、「自分の両親と同様」、もしくは、「おじ/おば」の表現の他に、アラビア語で夫/妻の父親・母親に当たる「hamaya, hamati」という表現もある。実際の日常生活で使用される表現パターンが様々であるため、このように選択可能な回答選択肢の数が多くなっている。

そのため、本質問への回答結果は、それぞれの 8 択の表現に分けられており、回答の多くが 2 割もしくは 1 割以下になっている。

まずは、最も多かった回答は、「お父さん、パパ／お母さん、ママ」という、両親と同様の呼びかけの表現で、3 割り近くの 28%を占めている。この表現が使用される年齢層については、若年層が多く、そして都市部の回答者が農村部の回答者よりやや多かった。また、この回答の男女別の結果について、男性より女性のほうが倍近く多いことが分かった。次に多かった回答は、「おじさん、おばさん」という、両親に次ぐ「おじ・おば」と同様の呼びかけの表現であり、2 割を占めている。また、この表現の回答者の内訳について、「お父さん、パパ／お母さん、ママ」とは真逆の結果となっており、女性より男性のほうが多かった。そして、若年層より中高年層の回答者がやや多く、都市部より農村部の回答者の割合が倍近くになっている。この結果での都市部と農村部の違いについて、都市部とは異なり、農村部では親戚同士や知り合いの家族同士での結婚のケースが多く、結婚以前の家同士の関係上、義父母のことを「おじさん／おばさん」と呼ぶことも考えられるため、この表現が農村部で多く使用されているのではないかと分析できる。

次に紹介する表現は、「**hama:ya, hama:ti**」という、「夫／妻の両親」の意味を直接指す表現である。この表現は、直接呼称、そして言及表現として使用可能であるが、直接呼称としての使用が好まれない場合がある。そのため、この質問でこの表現がどのように使用されるかが明らかにできるように、夫／妻の両親への直接の呼びかけの場合と、夫・妻の両親の不在時の彼らへの言及の場合について分けて回答の選択肢を設けた。直接呼称としての回答結果は、15%を占めているのに対し、言及表現としての回答結果は、12%で、両者を併せると、全体の 3 割弱の 27%を占めることになり、最も多かった回答とほぼ近い割合になる。

それぞれの回答者の内訳をみると、直接でやや硬い表現とも受け取られる「**hama:ya, hama:ti**」という表現を選んだのは、女性より男性回答者が多かった。回答者の年齢層について若年層のほうがやや多く、そして地域別では、農村部より都市部のほうが多かった。一方言及としての同表現の結果は、義父・義母の不在時の場合にのみ使用すると答えた人の多くが女性で、女性が夫の両親に対してこの表現を直接使用するのを避けようとするが、言及表現としての使用が多いことが分かった。

次に多かった回答は、約 1 割を占めた「**hagg/haggah**=巡礼者」という表現で、農村部の中高年層の回答者が圧倒的に多かった。中高年層が若年層よりこの表現が義父母に対して使用できるのは、中高年層のほうが義父母と近い年齢層で両者にとって違和感なくこの表現が使用できるからであると考えられる。そして、「**hagg/haggah**=巡礼者」という表現は、実際に巡礼に行った人以外の相手に対して使用する際、年齢や場面とその場面の参加者等の条件がある。その条件が満たされない限り、年上の相手に対しての「**hagg/haggah**=巡礼者」の使用が失礼になることがあり、若年層としては使い

にくい表現であると思われる。その他の少数派の回答は、「Uncle=おじさん、Tante=おばさん」という外来語表現と、役職名称での呼びかけ表現、そして「Abu○○・Umm○○=子供の名+の父/母」という表現がほぼ同割合でそれぞれ5%以下になっている。

表9：＜夫婦間の相手の義父、義母である両親についての呼称・言及の表現＞

| 年齢層・男女別 出身地域 | 30代以下 | | 40代以上 | | 合計 | 地域別小計 | | 合計 |
|---|------------|------------|------------|------------|--------------|------------|-------------|--------------|
| | M | F | M | F | | 農村部 | 都市部 | |
| 「hama:ya = お義父さん、 hama:ti = お義母さん」(呼びかけ・言及) | 19 (22) | 7 (11) | 2 (6) | 3 (12) | 31 (15) | 9 (10) | 22 (20) | 31 (15) |
| 「hama:ya = お義父さん、 hama:ti = お義母さん」(不在時のみ) | 8 (10) | 10 (15) | 4 (12) | 3 (12) | 25 (12) | 11 (12) | 14 (12) | 25 (12) |
| 「おじさん、おばさん」等の親族呼称表現 | 20 (23) | 8 (12) | 8 (25) | 4 (17) | 40 (20) | 25 (27) | 15 (13) | 40 (20) |
| 「Uncle=おじさん、Tante=おばさん」のような外来語 | 2 (2) | 4 (6) | 1 (3) | 4 (17) | 11 (5) | 7 (7) | 4 (4) | 11 (5) |
| 「お父さん、パパ/お母さん、ママ」両親と同様の呼びかけ表現 | 20 (24) | 26 (39) | 4 (12) | 8 (34) | 58 (28) | 19 (20) | 39 (34) | 58 (28) |
| その他の表現:「hagg/haggah = 巡礼者」 | 7 (8) | 7 (11) | 7 (21) | 2 (8) | 23 (11) | 16 (17) | 7 (6) | 23 (11) |
| その他の表現:「Abu○○・Umm○○ = 子供の名+の父/母」 | 4 (5) | 3 (4.5) | 2 (6) | — | 9 (4) | 4 (4) | 5 (4) | 9 (4) |
| 役職の名称: (「Docto:r = 医者等」、 「Ba:f Muhandis = エンジニア様」) | 5 (6) | 1 (1.5) | 5 (15) | — | 11 (5) | 3 (3) | 8 (7) | 11 (5) |
| 合計 | 85 (41) | 66 (32) | 33 (16) | 24 (11) | 208 (100) | 94 (45) | 114 (55) | 208 (100) |

4. おわりに：

筆者の母国であるエジプトで母国語とされているアラビア語は、長い歴史を持つ言語であるが、日本語ほど整った敬語という文法カテゴリーを持たない言語である。現代アラビア語の大きな特徴の一つに、文語と口語の使用上の違いの大きさという点で、日常生活での使用状況が非常に独特なものであることが挙げられる。エシーバ（2010）では、文語のアラビア語がイスラーム教の聖典であるクルアーンと強く結びつけられており、クルアーンがアラビア語の文法規範にもなっていると述べた。一文字もの変化が認められない聖典クルアーンとの結びつきにより、文語のアラビア語における文法上において変化は認められず、14世紀にわたるイスラーム教の時代と現代の文語アラビア語には大きな変化がない。文語とは異なり、日常生活で使用される口語においては、言葉のあらゆる方面での柔軟性があり、社会の変化と共に様々な発展と変化が現れていると思われる。それは、今のエジプト社会において日常生活の中で使用されるのが口語であり、文語が使用される機会は限られていることによってできた状況である。このような状況は、エジプトのみならず、その他のアラブ諸国にも言えることである。

また、上記にも紹介したように、アラビア語を母国語とするエジプト社会の日常生活において多様な場面での呼称表現が使用されており、それらの表現に各場面に適した待遇性も含まれていると考えられる。つまり、待遇表現が社会の変化に合わせて発展するのは、文語ではなく口語においてあることはエジプトアラビア語に間違いなく当てはまることである。更に、口語で使用される待遇表現の中から、書き言葉としての文語でも使用されることもある。このことから、本調査での呼称・言及の表現の多くは文語ではなく、口語アラビア語エジプト方言の表現になっている。

本調査の結果でエジプト社会における呼称・言及の表現の使用過程において、男女別、年齢層、地域とその伝統文化、そして親疎関係等の要素が大きな役割を果たしていることが確認できた。そして回答者の多くが社会での人間関係を意識し、社会の中でのあらゆる場面に合った呼称表現を選択しようとしていることで自然なコミュニケーションが成り立っていると言える。

本稿では、夫婦以外の上下関係が現れる場面とは異なり、夫婦間の呼称表現の場合は、相手への尊敬を表す待遇表現よりも、改まった家庭外の場面での、夫婦以外の同席者を意識した表現が多く使用されているのを見てきた。また、その反対の場面である、家庭内の家族や親族の前での会話の場面等においては、「あだ名や愛称」の表現が適切に使用されるということも確認できた。

全体の結果で特徴的だった回答は、「個人名」という回答で、殆どの質問の回答結果で最も多い割合を占めているということについても述べた。「個人名」が最も多い回答になっている理由について、各質問への回答が複数選択肢から選択可能なものになっていることが挙げられる。そして、すべての質問への回答結果から、「個人名」を選択した回答者の約半分近く（45%）の人が、他の回答も同時に

選択していることが分かった。そのため、アンケート全体の回答者及び各質問の対象者の総数と、各質問への回答総数を比較してみると、各質問の回答者数がアンケート全体の回答者数を上回る場合があることが確認できる。これは、「個人名」が一般レベルの表現として基本として使用されると共に、他の表現も同時に選択されているというケースが多いことを意味している。このように、結果的として「個人名」という表現が殆どの質問で最も多く選択された表現にはなったが、最も多い回答にのみ注意を向けず、「個人名」以外の多様な表現とその使用状況に注目しながら分析を行ってきた。

本調査の結果では、場面とその参加者が異なる家庭内外での夫婦間の呼称・言及の表現が男女別、年齢層別、そして地域別に適切に変化していることが分かった。例えば、エジプト社会で伝統的な表現として知られるような、「Abu〇〇・Umm〇〇=子供の名+の父/母」や「hagg/haggah=巡礼者」のような表現は、若年層よりも中高年層に多く使用され、都市部よりも農村部で多く使用されるという特徴を持っている。また、「あだ名や親しみを表す愛称」のような表現は、親族以外の他人の前では使いにくい、反対の場面である家庭内では、都市部の若年層の回答者に多く使用されるということも分かった。そして呼称・言及の表現としての役職名称「ドクター、エンジニア」などの表現も、少数派ではあるが、親族以外の他人の前で夫婦関係にある男女間でも、お互いへの尊敬の目的で約1割の回答者に選択されている。特にこの表現の男女の結果がほぼ同様の割合で使用されているということも特徴的な点である。

子供に対する夫婦への言及表現の回答結果でも、若年層と都市部の回答者が多数派であるため、「パパ・ママ」の表現が特に女性に最も多く使用されている。これに対し、「Abu:k/Ummak=(あなたの)お父さん、お母さん」という表現の使用状況は、農村部出身の男性が多く、中高年層の回答者が多かった。そして最後の夫婦の両親への呼称・言及の用言の結果でも、多様な表現の回答結果が各表現に分けられている。特に、「自分の両親」もしくは「おじ/おば」と同様の呼称・言及を使うと答えた人の割合が大きく、全体の半分近くになっている。その他の回答にも、場面と、話してと聞き手との関係に合った表現が選択されており、更に男女別、地域別、そして年代別の条件によって使用される表現が変化していることをみてきた。

このように、夫婦間の呼称・言及の表現で待遇性を持った表現が多く使用されており、エジプト社会においても、場面とその参加者が十分意識され、更に話し手と聞き手、そして第三者の参加者等に関する条件（年齢・地域）等によって様々な表現が選択され、コミュニケーションが行われていることを明らかにできたと考える。

最後に、今後の課題として、アンケート調査の結果全体を含む上記の調査結果を日本語の親族呼称表現と比較し、その待遇性や使用上の共通点と相違点及びその背景にある言語、社会そして文化の相互関係について明らかにすることを目指している。

参考文献・参照ウェブサイト：

エシーバ ムハンマド(2010)『アラビア語母語話者の日本語学習過程における母語干渉の研究』早稲田大学日本語教育研究科修士論文（未公開）

エシーバ ムハンマド（2016）「アラビア語における人称・呼称の表現とその待遇的使用について」中川裕 編『言語と地域社会』千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書 第302集 Pp. 42-69

<http://data.worldbank.org/indicator/SE.ADT.LITR.ZS?locations=EG>（2017年7月25日 閲覧）

http://www.capmas.gov.eg/Pages/StaticPages.aspx?page_id=5035（2017年8月3日 閲覧）

（えしーば むはんまど・千葉大学人文社会科学研究所博士後期課程）

A Study about Terms of Address between Relatives in Egyptian Arabic

—Focusing on the Usage of the Terms of Address and Reference between Married Couples
according to the survey results—

Mohammad Eshiba

Summary:

In this paper, the author is introducing a brief study about the way of address and reference in the Egyptian Arabic, and the characteristics that the terms and ways of address and reference have in the Egyptian society. In addition, according to the survey results introduced here, the author is making an explanation about the backgrounds that are included in the selected answers of terms of address and reference between married couples in the northern part of Egypt (Urban and Rural areas).

The introduced results are about the terms of address and reference between husbands and wives in front of family members and relatives, and in front of people who are not from family or relatives. There is also a question about the terms of address and reference, which the two married couples use toward the other partner's parents. The results introduced here show the numbers and percentages of the answers, comparing them according to gender, age, and areas of the survey respondents.

In the near future, the results of this survey including the results in this paper will be used in making a total comparison between the terms of address between relatives in the two languages; Japanese and Egyptian Arabic.